

令和7年7月17日

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)

営農情報 3

水稻栽培における高温対策について

本年は九州北部地方における梅雨明けが非常に早く、梅雨明け以降、気温が平年を大きく上回っており、向こう1か月の気温も平年より高く推移すると見込まれています。

梅雨明け後に高温が続いた前年産米では、特に極早生品種「夢つくし」を中心に、出穂期～登熟期における猛暑の影響で、不稔粒の発生や白未熟粒の多発、玄米の充実不足などによる収量及び玄米品質の低下が発生しました。このような高温障害を軽減するため、以下の対策を参考に適切な水管理や施肥に努めましょう。

また、本年も早期水稻を中心にイネカメムシの発生数が多く確認されており、被害の発生が心配されます。良質米生産に向けて、適期防除に努めましょう。

1 高温対策

【早期・普通期水稻共通】

- (1) 白未熟粒発生を防止し、籾の充実を高めるため、出穂後20日間は水を切らさないように管理する。また、刈取り5～7日前まで水を溜め、早期落水を避ける。
- (2) 用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をほ場内にとどめる。
- (3) 刈取り適期になったら、刈り遅れにならないよう速やかに収穫する。
- (4) 収穫した籾は直ちに乾燥し、胴割米が発生しないよう注意する。

【普通期水稻】

- (1) 熟期の早い品種は、幼穂形成期にあたるため、水を切らさないように管理する。
- (2) 葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなるため、穂肥を遅れずに施用する。なお、基肥一発肥料を施用したほ場でも、幼穂形成期頃に葉色の低下が著しい場合は、出穂前10日頃までに窒素成分で0.5～1kg/10aを目安に穂肥を施用する。
- (3) 普通期栽培は、莖数が確保されたら、過剰分けつ抑制や倒伏防止のため、黒乾状態まで中干しする。

2 イネカメムシ対策

イネカメムシは出穂直後から籾を加害し、不稔籾が生じるため、ほ場内で発生を認めたら出穂期（4～5割の穂が出た時期）に防除を実施します。防除後、さらに発生が認められる場合は、斑点米の発生を防止するため追加の防除（1回目防除の14日後ころ）を実施します。

なお、防除にあたってはみつばちへの影響を十分に考慮して行ってください。

【イネカメムシ防除における留意点】

- ・発生には地域的な偏りが見られます。発生が多く認められる地域では、防除を徹底しましょう。
- ・周囲と比べ出穂が早いほ場では、被害が大きくなる可能性があるため、ほ場での発生状況に注意しましょう。
- ・移動性が高く、畦畔の草刈りを行ったほ場でも多発する場合があります。
- ・薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数、使用方法等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。



イネカメムシの写真

以上